

町長との座談会(10～30代) 内容

会議日時・目的

令和6年11月17日(日) 10時30分～ 庁舎3階 第1・2委員会室

町民の皆さまとより身近に率直な意見を広聴することにより、町民の方たちのニーズを把握し、町政運営に反映すると同時に、町政への理解を深めること

会議内容

(1)去年は年代を問わず実施したのか。また、年代を分けて実施した理由は。

去年は10～30代、40～50代、60代以上で2日間に分けて実施している。一昨年実施した中で同世代の方が意見を言いやすいとの要望があり、去年から年代を分けて実施している。去年の状況を踏まえ、今年も年代を分けて実施している。

(2)中学生・高校生からの要望で実現したことはあるか。

学校の設備関係の要望があり、実現したことがある。子どもたちの要望は積極的に聞くようにしている。

(3)事業承継で新しい人を入れたり等の考えはあるか。

今の経営者がどういう風に考えているか、意欲をもってやっているかが非常に大きな問題。それは行政が立ち入ることのできない分野。立ち入るとしたら、人が集まってくるような環境や今の町並みをそのまま持続可能な町にできるような環境を作ってあげること。実際は経営者の努力でしかなし得ない。非常に難しいところ。

(4)今後、人口減少によって歳入が減少していくにあたって、財政負担増加やインフラ整備費用の増加が見込まれる。その中で歳入を増やすキーポイントとなる事業や考え方はあるか。

企業誘致と町民の所得水準の向上。企業誘致に関しては町民の生活環境に悪影響を及ぼす企業を誘致することはできないので現在は地道に活動してもらえる企業を探している。

(5)土地造成は町が行うことを条件に企業誘致することはできないか。

今の財政制度ではすべて町の一般会計で予算措置をするしかない。だから、財政のやりくりの関係で町が直接手を下すことはできない。開発に関する支援(補助金)はできる。

(6)過疎債を企業の補助金にあてることはできないのか。

過疎債は町が主体となってその地域に対して持続的な発展ができるような事業に使えるもので、企業への補助金は過疎債を充てることはできない。

(7)長南町の一番の魅力はなんですか。アピールしたいものは。

圏央道があり、インターもある。企業がこの地域に興味があれば、インターの設置計画が周知された時点で企業側で手を挙げたはずだが、実際には興味をもってもらえない状況がある。しかし、産業振興策としてなんとか手を打たなければならない。

(8)空き家に対する補助金等を行っているのか。試しに住めるような空き家はないのか。

補助制度はあるが、所有者の方と空き家を探している方との所有権の移転等の部分でマッチングが非常に難しい。また、別の自治体ではお試し居住を行っているところもある。しかし、長南町では所有者の意向等により、お試し居住を実施することは非常に難しい。

(9)町長が若い人に期待していることはなにか。

若い人も長南町の良さを知っている。その良さを活かしたまちづくりを一緒に考えてほしい。次世代に向けたまちづくりを進めていくうえで若い人の意見を取り入れていきたい。

承認日 令和6年12月27日